

この世界の片隅に 共同鑑賞行われる



▲共同鑑賞は今回で44回目であった。

『この世界の片隅に』では戦前から戦後にかけての登場人物の生活が描かれている。主人公のすずは突然、広島県西部にある呉に嫁ぐこととなる。そのころの呉は日本海軍の一大拠点であった。1945年になると呉は空襲にさらされるようになり、すずは大切な人や風景を失っていく。そんななかでも暮らしていかなければならない主人公の懸命に生きる姿を描き、観客に戦争と幸せについて考えさせる映画である。

人権教育課長である雨川有喜男先生はこの映画が選ばれた理由を「いくつかの作品が候補としてあったが、この

10月17日に彦根市文化プラザで共同鑑賞が行われた。今年度は映画『この世界の片隅に』が選ばれ、多くの本校生徒と保護者が鑑賞した。

速報新聞
キマグレ
発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

▶雨川先生は真剣な表情で話された。



映画が共同鑑賞という機会が一番観てほしかった」と明かされた。また今回の共同鑑賞を振り返り「今回の映画は幸せに生きる権利を侵害するものである戦争を扱ったものだった。戦争を経験された方々がこの先亡くなられていくので、アニメーションではあるが若い高校生のみなさんに観てもらえたのはよかったと思う」とコメントされた。

そして雨川先生は共同鑑賞を行う意義を「私が教師になったときには、共同鑑賞はすでに何度か行われていた。滋賀県のすべての高校生が、10代という大切な時期に人権の視点から自分の生活を振り返る機会になればいいと思う」と説明された。最後に雨川先生は生徒に向けて「苦しみのなかでも幸せを見つけている主人公のすずさんの生き方を通

して、何かを感じ取ってほしい。また生徒のみんなも普通の生活のなかに幸せを見つけたい」とメッセージを送られた。

共同鑑賞に参加した生徒からは「戦争は人々の安全に生きる権利を侵害していると思った」「つらいシーンが多く涙が止まらなかった」「戦争はしてはいけないものだ改めて実感できた」「戦争のなかでも前向きに過ごすしかない」ところに、人間がもつ強さと悲しさを感じた」などの感想が寄せられた。

映画から考えを深める

翌日に行われたLHRで生徒たちはクラス内で班に分かれて今回の共同鑑賞を振り返った。話し合いでは印象に残ったシーンやセリフ、各場面での登場人物の心境が話題に挙がった。また「戦争は最大の人権侵害」と言われる理由についても互いに意見を出し合い考えを深めた。